福井県における郷土研究・郷土誌の動向　令和三年度分

本会事務局
福井県立図書館郷土資料グループ編

はじめに

令和三年度は、一向に終息の兆しをみせないコロナ禍にあって、各文化施設は感染防止対策をとりながら、手探りで展示やイベントを行うようになった。このような中、福井県立図書館は同館ホームページの人気コンテンツを『100万回死んだねこ　覚え違いタイトル集』（講談社）として刊行、主要各紙の書評をはじめ、様々なメディアに取り上げられるなど多くの反響を呼んだ。また、県立図書館・文書館・ふるさと文学館は三館協働の取組みが評価され、Library of the Year 2021 優秀賞を授与された。

以下、令和三年度に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土研究・郷土誌の動向とする。なお敬称は略した。

一　歴史・地域史・史跡調査報告書

福井勝山日本遺産活用推進協議会・奈良文化財研究所『福井・勝山　石がたり』は、中近世における石のまちづくりをテーマにまとめた研究報告書。角鹿尚計『日本古代氏族の祭祀と文献』（岩田書院）は、学位論文「古代氏族とその祭祀の研究―越前地方を中心に―」（皇學館大学）を加筆修正した一冊。北陸中世近世移行期研究会『地域統合の多様と複合』（桂書房）には、角明浩「越前における豊原寺の特殊性」、佐藤圭「中・近世移行期における大名家の重臣連署状―越前国を中心に―」、長谷川裕子「越前の「領」にみる越前松平氏の領国支配構造」を収める。竹間芳明『戦国時代と一向一揆』（文学通信）は、現時点で明らかになっている一向一揆の多様性を、各時代の社会・地域の状況に沿いながら提示する。石川美咲は『中世後期の守護と文書システム』（思文閣出版）に「戦国期越前朝倉氏発給文書にみられる横内折書状」を寄稿。戦国期東国の武家社会で用いられた堅紙の横内折書状が朝倉氏の発給文書に確認できることに着目、その意味を論じる。福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館は『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡再整備等計画』を策定。全国の史跡において遺跡の劣化など同様の課題を抱える自治体等の再整備の参考となることを目指した一冊。また同館がまとめた『中部大名の城と城下町 part1越前・若狭』は、主催シンポジウムの資料集。「武家拠点科研」事務局は『越前における武家拠点の形成と変容―16-17世紀を中心に―』を刊行、福井研究集会の資料集としてまとめたも

の。

越府史学会『越府史攷』は、府中城石垣の保存をめぐり発足した同会による機関誌。創刊号は府中城遺跡特集号。越前市神山地区自治振興会『うるわしき神山』は、古代から現代に至る神山の歴史を豊富な資料とともに著した大著。若狭町の山内風土史編纂委員会『山内風土史』は、江戸時代後期から地区で受け継いできた三〇〇〇点以上の記録や古地図を整理し、当時の住民の様子を紹介する。池田正男『杉崎史料集』は「（越前市）杉崎の歴史」の基礎資料をまとめたもの。福井市文殊地区の村の歴史懇話会『温故叢談17』は、「私の昭和時代の体験報告」を特集する。

そのほか主な発掘報告書に『波寄三宅田遺跡（第一～三分冊）』『福井城跡（第一・二分冊）』（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター）、『福井城跡24』（福井市教育委員会）、『国史跡六呂瀬山古墳群　坂井市埋蔵文化財発掘調査報告書』（坂井市教育委員会）などがある。

二　目録・人物・地図・ガイドブック

勝山市教育委員会『松屋文書目録』は、近世・近代の勝山を代表する商家「松屋」の所蔵する史資料四五一二点を分類・目録化した一冊。同市文化財報告書第一集として刊行された。

片桐一男『杉田玄白と江戸の蘭学塾』（勉誠社）は、玄白が開いた蘭学塾「天眞楼」に着目し、蘭学の隆盛を初公開史料を用いて明らかにする。安藤優一郎『越前福井藩主松平春嶽―明治維新を目指した徳川一門―』（平凡社）は、大政奉還を唱え公武一和を目指した春嶽の生涯を追いながら、幕末の動向を新たな視点で再構築する。八木淳夫は『父好成・兄元春・弟葉庵集』をまとめた。葉庵は前田好成（京都の儒医）の五男で福井藩儒医。森田義之・小泉晋弥編『岡倉天心と五浦』（中央公論美術出版）は、新たに五編の論考を加え一三年ぶりに旧版を全面改訂したもの。うた子の会『大野と林歌子』は、大野出身で戦前に活躍した社会事業家林歌子について、手紙、日記、新聞など様々な面から調べ上げた労作。中嶋彰『早すぎた男南部陽一郎物語』（講談社）は、ノーベル物理学賞を受賞した南部の発想がどこから生まれたかを追った評伝。高津俊司『北海道の鉄道開拓者―鉄道技師・大村卓一の功績―』（成山堂書店）は、日本の鉄道発展に貢献した福井市出身の鉄道技師・大村の波乱に満ちた人生についてまとめた。栗原肇『やったるわい！あの頃のパワーをいまのあなたに』（日本物流新聞社）は、昭和の人気ドラマ「どてらい男」のモデルになった福井市出身の経営者山本猛夫の伝記。雑誌『歴史研究』第六九一号は、大谷吉継を特集し、川口素生、眞野幹也らの論考を掲載する。

『福井のトリセツ』（昭文社）は、日本の各県の地形や地質、歴史、文化、産業など多彩な特徴と魅力を、地図を読み解きながら紹介する人気シリーズの一冊。『福井のＰｉｎ！』（福井市）は、ワークショップの参加者自らが取材し執筆した人物紹介記事を中心に、読者と福井をつなぐ「人・コト・場」を紹介するガイドブック。『西の鯖街道読本』（西の鯖街道協議会）は、裏街道である「西の鯖街道」の

面白さを地図や写真を使って伝える。

三　各分野団体史

各分野団体史では、福井商工会議所『福井商工会議所一四〇年の歩み』、小浜商工会議所『創立70周年記念誌』、福井銀行『株式会社福井銀行百二十年史』、福井県町村会『福井県町村会創立一〇一周年記念誌』、福井県立丹南高等学校閉校記念誌『群青』、福井県中学校体育連盟『70周年記念誌』、仁愛大学『仁愛大学開学20周年記念誌』、福井県公民館連合会『記録資料福井県公民館連合会10年のあゆみ』、なごみ会『福井いきいき健康麻雀の会15年史』、敦賀海洋少年団『敦賀海洋少年団70年のあゆみ』、小浜海洋少年団『小浜海洋少年団60年のあゆみ』、福井県原子力平和利用協議会『年表原平協50年のあゆみ』、ふくい農山漁村懇談会・三〇周年記念誌『発足30年 変化を見つめた研鑽の記録』などが刊行された。

四　宗教・経済・教育・民俗

高橋利男『心のふるさと二十八社神社』は、若狭町無悪の「二十八社」について由緒のほか仏像などを紹介する冊子。福井県立大学地域経済研究所は『「新型コロナウイルス感染症に関する永平寺町生活実感調査」報告書』をまとめ、五つの政策提言を行う。同大学学術教養センター『福井県大のリベラルアーツ』は、地方大学としては出色のリベラルアーツ教育について、概要と将来像を紹介する。山田雄造『祭礼行事としての左義長』は、勝山市が全国に誇る勝山左義長を中心に史料等から読み解く。越前萬歳保存会『越前萬歳発祥の地 味真野』は、越前萬歳だけでなく、地区の昔話、神社と寺院、名勝についても豊富な写真で案内する。おおい町佐分利公民館生涯学習推進委員会は八年かけて地区に伝わる歴史や昔話を調べ上げ『さぶり物語 歴史と昔話』にまとめた。金田久璋『若狭あどうがたり集成』（若狭路文化研究所）は、嶺南地域で語り継がれてきた昔話一三五話をまとめたもの。川波久志は論考「若狭町熊川区の山車の見送幕」を『鴨東通信』№一一三（秋・冬）に発表。県指定有形文化財の三点の見送幕について解説する。

五　自然科学

福井地盤図作成実行委員会『福井の地盤―福井の平野―』は、福井平野のボーリングデータおよび土質試験データを、地質学、地盤工学、物理探査などの観点から地盤の特徴をまとめたもので、地盤図として福井県で初めての発行。福井県立大学恐竜学研究所は研究や福井の恐竜についてより広く一般に知ってもらおうと『福井恐竜学』を、同大学生物資源学部生物資源学科は『掘り起こそう！生活に身近な生物資源学いまとこれから』を、同大学大学院看護福祉学研究科は『健康生活科学』をそれぞれ刊行。現在進めている研究をわかりやすく解説する。福井きのこアドバイザー会は『福井のきの

こカラーブック』を一七年ぶりに改版し内容を充実した。大野市教育委員会がまとめた『全国トゲウオ保全シンポジウム in 結の故郷越前おおの 記録集』は、本願清水イトヨの里 開館二〇周年記念事業として開催したもの。ウェットランド中池見『図説中池見湿地』は、活動を始めて三〇年の節目に昨年出版するはずだった記録集。福井大学医学部附属病院『大学病院がわかる本』は、四年前に刊行した『福井大学病院の得意な治療がわかる本』を大幅に改訂、さらに読みやすくした一冊。

六　工業・土木・建築・家政

福井県建設技術協会は創立七五年を記念し『福井県土木史　第Ⅲ巻』を発行、第Ⅱ巻以降の二〇年の土木行政を記録する。坂井市産業政策部観光交流課『丸岡城周辺整備基本計画』は、丸岡城やその周辺の特性や課題を洗い出し、整備の短・中・長期基本計画を示した。佐伯哲也『越前中世城郭図面集3』（桂書房）は、越前南部編〈越前市・池田町・南越前町・敦賀市〉・補遺編として六七城の詳細な平面図を掲載する。朝日海秀は『建築家・五十嵐直雄に関する建築論的研究』を発表、戦後に活躍した建築家五十嵐直雄をめぐる人々やその建築制作と思想の関係性についてまとめる。『鯖江の眼鏡』（三省堂書店）は、福井県眼鏡協会が全面監修した鯖江の眼鏡の公式ガイドブック。福井南高等学校原子力探求グループ『福井県高校生の原子力に関する意識調査 2021』は、県内の高校二年生一八〇〇人余りから得た原子力に関するアンケートを分析したもの。中村准は『新開・清右エ門家の歴史』を刊行、明治から平成にかけての吉村織物工場の歴史を豊富な写真とともにたどる。

『ふくいのそばびと』（福井放送）は、福井ブランドのそばの魅力を全国に発信するべくまとめられた一五年ぶりの改訂版。『「ふくいそば」の話をしよう』（福井県農林水産部福井米戦略課）は、そば産地としての名を全国に広げるため、福井県のそばに関する情報を集約したテキスト。

七　産業・芸術・文学

岡田健彦『越前ガニいまむかし』は、福井県における代表的な蟹漁について述べる。小坂康之・林公代共著『さばの缶づめ、宇宙へいく』（イースト・プレス）は、小浜の高校生が作ったさば缶が宇宙食として使用されるまでの一四年を、指導教師と地元出身ライターが描いたもの。中西聡『北前船の近代史』（二訂増補版）（交通研究協会）は、既存の章を見直し新たに補章「鉱山業と北前船主」を加えた。小浜市文化交流課『小浜商人と北前船船主古河屋嘉太夫』は、小浜市制七〇周年特別展示の解説図録。三隅治雄『北前船が運んだ民謡文化』（第三文明社）は、北前船の寄港地ごとの民謡の歌詞、文化とそのつながりについて探る。

福井市教育委員会『福井市の文化財』は、令和元年五月一日現在の福井市内に存在する国・県・市の指定文化財、国選択無形民俗文

化財および国登録有形文化財一八四件をカラー写真とともに掲載した。若狭町は『若狭町文化財保存活用地域計画』を策定、国の文化審議会の答申を経て、文化庁長官の認定を受けた。岸本三次・中島嘉文は『西依成斎の人と書』（岩田書院）を上梓。西依家文書が小浜市に寄贈されたのを機に始めた調査研究の成果をまとめた。福井県陶芸館『福井県陶芸館　館蔵品目録』は、開館五〇年を迎えた当館が所蔵している八百点以上の陶磁器資料から二八二点をカラー写真とともに掲載した。福井県立こども歴史文化館『万司の絵馬』は、江戸時代の人気絵師夢楽洞万司を子ども向けに紹介する絵本。富山市佐藤記念美術館『岸駒と岸派の絵画』は同展の図録。江戸時代の絵師岸駒（がんく）の後援者だった越前市の木津家から岸駒の作絵画など三〇点余が寄託されたのを記念して特別展が開催された。道添進編訳『茶の本　日本の覚醒』（日本能率協会マネジメントセンター）は、岡倉天心の名著といわれる『茶の本』『日本の覚醒』の背景や天心の生涯にふれつつ現代日本語訳で読み解く一冊。

詩誌『果実』（果実の会）は六〇周年を、同じく詩誌『水脈』（福井県詩人会水脈）は三〇周年を、また越前市のいまだて児童文学会の同人誌『とろとろぽつぽつ』は三〇周年をそれぞれ迎えた。

八　歴史研究施設の動向

最後に各施設の主な特別展を紹介する。県文書館は「お城のあとが果樹園に！～松平試農場の記録と蔵書～」「幕末福井藩の大奥女中たち」「Twitter の鉛筆画でよむ松平春嶽のお正月」、県立歴史博物館は「福井県野球物語～甲子園をめざした球児たち～」「景色の歴史をたどる～絵図・地図からみる越前若狭のまちとむら～」、県立若狭歴史博物館は「鳥浜貝塚発見60周年記念特別展　森と出会った縄文人　人と植物の歴史の始まり」、県立美術館は「永遠のアイドル・麗子にあいたい！教科書で見る巨匠たち ウッドワン美術館名品展」、県立こども歴史文化館は「小学校誕生～日本が世界につながった時代～Part1」、県恐竜博物館は「海竜　恐竜時代の海の猛者たち」、県陶芸館は「ECHIZEN BRAND―海をわたる褐色のやきもの―」、県年縞博物館は、若狭三方縄文博物館と合同で特別企画展「Varves in Maya マヤの年縞をめぐる冒険 2021」、福井市立郷土歴史博物館は「グリフィスが見た明治の福井」、敦賀市立博物館は「古写真が語る敦賀～うつりゆく「大敦賀」のまちなみ～」、勝山城博物館は「城下町「勝山」～江戸時代の祭礼と災害から探る」、あわら市郷土歴史資料館は「金津奉行と江戸時代の金津」、越前町織田文化歴史館は「織田信長が愛した幸若舞」をそれぞれ開催。なお、県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館は、一乗谷朝倉氏遺跡博物館（仮称）として令和四年一〇月の開館を目指して休館、坂井市みくに龍翔館も令和五年度のリニューアルを目指して休館している。

以上、個人史、抜刷など割愛した資料や、遺漏についてはお許しいただきたい。

（前田眞佐子）